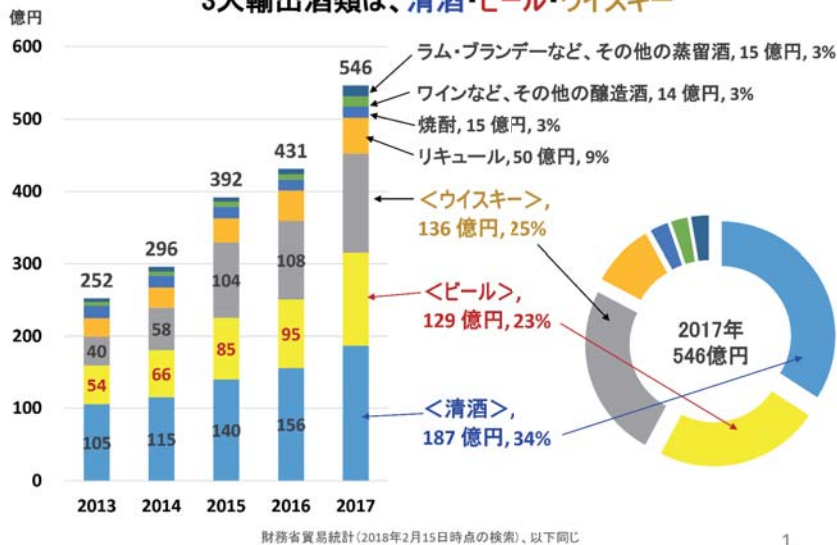


ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料で紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

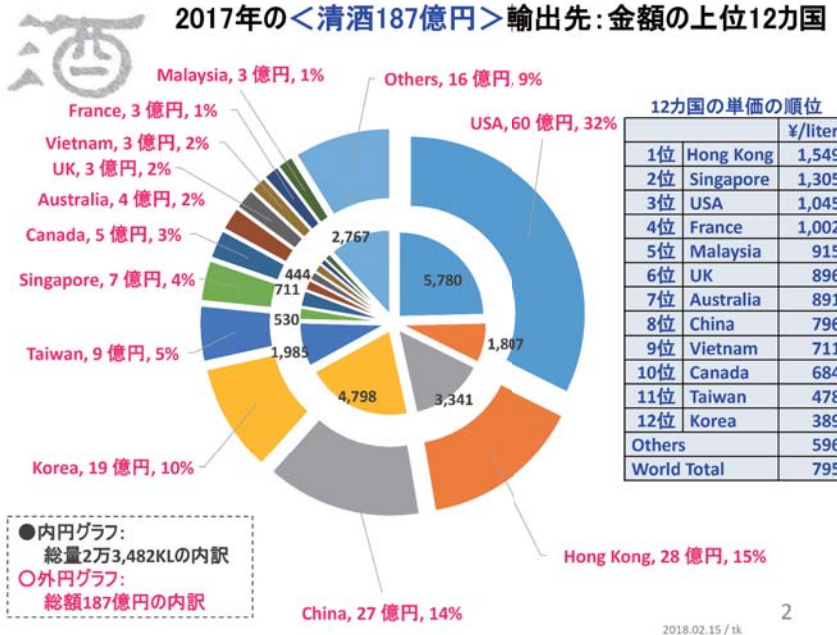
今回は、「ニッポンの輸出酒類の実態と、クラフト比率」をご紹介します。

日本酒類の輸出@2017年 3大輸出酒類は、清酒・ビール・ウイスキー



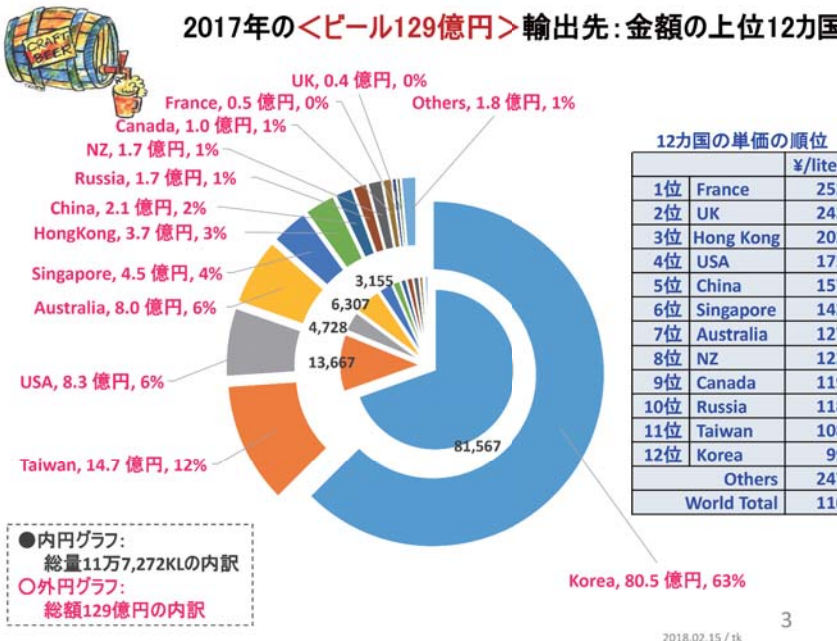
1

2017年の<清酒187億円>輸出先:金額の上位12カ国



2

2017年の<ビール129億円>輸出先:金額の上位12カ国



3

■棒グラフは、輸出された酒類の金額推移。4年間で、総額 252 億円が 546 億円へと、2 倍以上になっています。財務省貿易統計は、FOB 価格（日本で船に積み込んだ状態の価格）。海外での日本のお酒は、「リテール」が少なく「レストラン売り」が多い実態を考慮すれば、仕向け国では 3~4 倍（1,500 億円~2,000 億円）の消費を生んでいるはず。

■2017 年の 546 億円を円グラフにしたもので明確なとおり、クールジャパンの代表選手は「清酒」「ビール」「ウイスキー」の 3 つ。これで全輸出の 80% 以上。4 年間の伸び率は「清酒」:105→187 億円、78%増、「ビール」:54→129 億円、139%増、「ウイスキー」:40→136 億円、240%増。ウイスキーの伸び率は突出しています。

■「リキュール」は 8 割がたが「梅酒」と推定。棒グラフには 2013 年の数字を書いていませんが、25→50 億円、100%増、とこれも大きな伸び。

■「焼酎」は（甲類ではなく）ほぼ「本格焼酎」です。17→15 億円、▲10%と、残念ながら唯一の減少酒類。

■「その他の醸造酒」:5→14 億円、178%増、「その他の蒸留酒」:5→15 億円、190%増と、これらも大きく伸びています。

■清酒の仕向け先上位は、この数年、アメリカ、香港、中国、韓国。この 4 カ国で量の 67%、金額の 72%をしめる。中国は、2017 年の伸びが 84% (!) と突出した結果、韓国を抜いて 3 位に浮上。

■円グラフは、内側が量のシェア、外側が金額のシェアを示します。「内側角度」<「外側角度」であるほうが高い単価で輸出されていることになります。

■右の表は、総額を総量で割って「リッター当たり単価」を計算し、高い順に並べたもの。香港、シンガポール、アメリカ、フランスまでが、リッター 1,000 円以上。高級な日本酒を買ってくれている国です。

■一方、台湾は 478 円、韓国は 389 円と極端に安い。韓国では、紙パックの清酒が多く出回っています。また、日本清酒と並んで、アメリカから輸入された清酒もより安価な価格でメニューに載る店も多いのです。

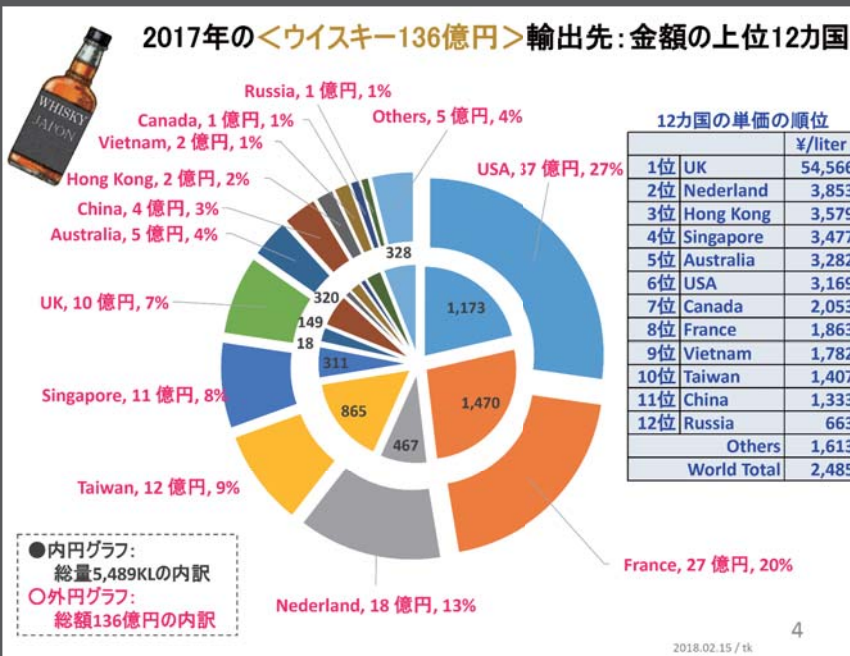
■ビールのグラフを見ると、他の酒類とまったく異なるのが一目瞭然。韓国向けが、量で 70%、金額で 63% を占めます。韓国では日本大手 4 社が激戦を繰り広げています。「リッター当たり単価」の欄を見ても韓国が一番安い。清酒と同じです。

■サントリー以外の大手ビール 3 社の海外戦略は、「現地生産」が基本で、「日本製の輸出」は韓国とアジアの一部にほぼ限っている。そのことが、韓国向けが突出している理由。

■「現地生産」の状況としては、キリン → ドイツ・ロシア・英国・アメリカ・ブラジル・中国、アサヒ → チェコ・英国・ロシア・タイ・カナダ・マレーシア・中国・イタリア、サッポロ → カナダ・ベトナム・アメリカ・オーストラリア、など。実に多くの国々で日本のビールは「委託生産」または「海外の自社工場生産」されています。

■サントリーのみは、日本製の輸出にこだわっています。また沖縄のオリオンビールも輸出しています。

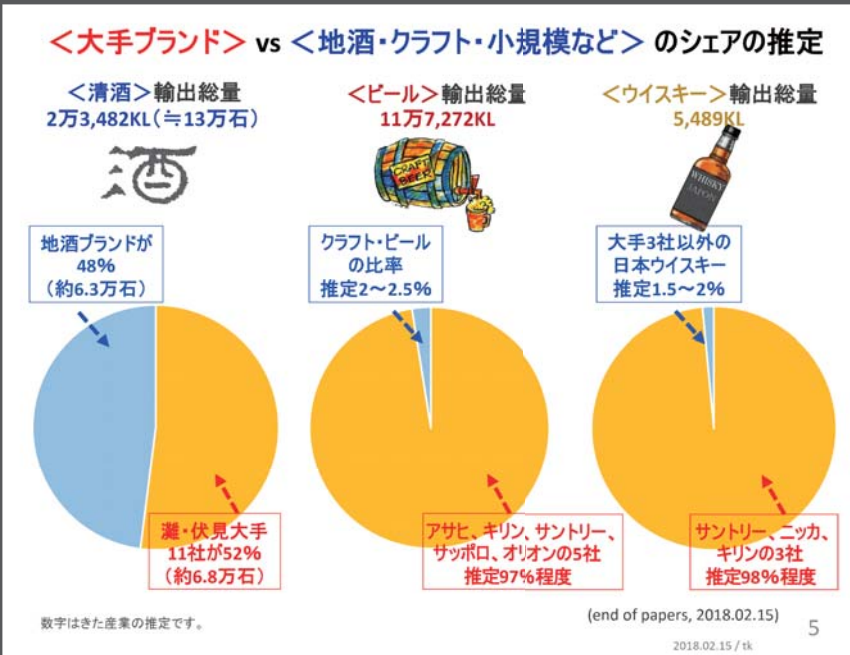
■後述しますが、アメリカ・英国・フランスなどには相当量のクラフトビールも輸出されています。「リッター当たり単価」が高いのはその影響もあります。



■日本ウイスキーは、かつて2000年前後は台湾向けがほとんどでしたが、2010年頃から急激に世界展開がはじまりました。この数年、金額トップはアメリカ、量のトップはフランス、という構図が続いています。

■「リッター当たり単価」の英国の欄が、5万4,566円(!)となっています。財務省貿易統計では、18.26KL(700mlびんで2万6,000本)が9億9,600万円で輸出されたことになっていますので、そういう計算になります。貿易統計は、ときどき後で修正される事もありますが、たぶんこれは間違えではないと思います。英国では「軽井沢」など、かつて存在したがいまはお目にかかれない「幻の日本ブランド」が、高価な値札をつけて並んでいたりします。またサントリーやニッカも限定品を出しています。(因みに、英国の2016年のリッター当たり単価は8,553円、2015年は6,485円。2017年は特別な高額商品がまとまって輸出されたのでしょうか。)

■なお、英国向けが2万6,000本というはいかにも少なすぎる。フランスなどを経由して入っているのではないかと考えます。プレグジット後は、英国向けが増えるように思います。



■近年、海外では、大手ブランドではないローカルブランド、クラフト銘柄をずいぶん見かけるようになりました。公式な輸出統計では、大手と大手以外といった区分はないので、推定を試みました。

■清酒は、業界誌で灘・伏見大手ブランドの輸出量が報道されますので、グラフの確度は高いと思います。なお「灘・伏見大手11社」は、月桂冠、白鶴、大関、白鹿、白雪、日本盛、菊正宗、松竹梅、黄桜、沢の鶴、剣菱です。

■クラフトビールでは、ネスト、コエド、エチゴが海外でよく見かける代表格。総量で3,000KL~4,000KLのクラフトビールが輸出されていると推定します。輸出単価は、大手が「リッター100円程度」であるのに対し、クラフトは「リッター300円程度」。円グラフは量を示しますが、金額シェアでは5~7%程度になり、相当の輸出貢献をしていると考えます。

■ウイスキーは、ベンチャー、本坊、江井ヶ島など先行ブランドに加え、最近では実に多くの日本ウイスキーブランドが欧米やアジアの店頭で並んでいます。また、先述の「軽井沢」のような高額ブランドもあります。金額シェアでは、6~7%にはなると推定します。

(text = t. kita)



- DKプリントのカタログを新しく制作しました。(本誌郵送の方には同梱)
- 清酒、ワイン、クラフトビール、ウイスキーなどのご採用事例を掲載。小ロット対応をいたします。



株式会社DKプリントは、きた産業のグループ会社です。